

白河学研究会

白河の魅力を探す旅 自らの思いで伝えたい、私たちの住むまちのこと

奥州の玄関口、歴史と伝統に彩られた白河。自分たちの住む白河を知り、体感しようという白河学研究会の皆さんと、地域学のあり方や白河の歴史について検討、講話を行いました。

活動内容

白河の魅力

長い歴史と伝統、豊かな文化・習俗に恵まれた白河。自分たちの住む白河をもっと知りたい、次の世代に伝えていきたいという思いを結集し、平成21年7月、白河学研究会が発足しました。現在、毎月1回、定例会を開催。白河市歴史資料館の学芸員に出前講座を依頼し、白河の通史を学ぶことから活動を開始しています。また機会を捉えて、講座で学んだ場所を实际歩いてまわっています。平成21年7月には、武銚山(表郷) 新地山(借宿) 烏峠(泉崎)等、遺跡を巡るフィールドワークを実施しました。

まずは歴史からスタートしていますが、活動範囲は歴史に限りません。白河学研究会が目指すのは、民俗、風習、自然、環境等、幅広い分野を包む「地域」全般について考えていくこと。自分たちの目で見て、耳で聞き、自分たちの手でつかんだ価値を、それぞれの思いで伝えていく... 白河の魅力を探す旅が始まっています。



写真/フィールドワーク

検討内容

第1回

日付：平成21年8月20日(木)

場所：ホテルサンルート白河

参加者：・白河学研究会 渡辺友彦氏、渡辺紀子氏
・ふくしま文化応援隊 藤田定興 委員

白河学研究会の活動内容について報告を受けた後、藤田委員から、地域を学ぶ際の心構えや方法論について、次のような助言がありました。

- ・まずは研究のテーマを限定せずに、いろんなものを扱うといい。
- ・定例会では、雑談のようにざっくりと話を進めるやりかたがよい。自分が参加できないとつまらないもの。会としては、話のきっかけを提供してやればよい。
- ・そして、そこから興味を持って、地域に入って見たり聞いたりしながら主体的に調べ



写真/藤田委員との意見交換

ていくこと。

- ・ビジュアルだけではなく、音やにおい、味といったものを扱うのもおもしろい。蹄鉄の音、年末の早朝に聞こえてきた餅つきの音等。感覚的なものは記憶に残っているため、お年寄りなどに聞くと、昔と今の違いについて発見しやすい。文書を追うだけではなく、感覚的なものも重視したほうがよい。

第2回

日付：平成21年10月22日（木）

場所：マイタウン白河

参加者：・白河学研究会 会員約10名
・専門委員 会津学研究会 菅家 博昭 代表



写真 / 菅家専門委員の講話

第2回派遣では、白河学研究会に先駆けて、地域学を実践している「会津学研究会」から菅家代表をお招きし、講話をしていただきました。講話内容は以下のとおり。

- ・2004年、県立博物館・赤坂憲雄館長の講演会をきっかけに発足。以後、雑誌「会津学」を毎年1号発行。
- ・会津に伝わるものをどうやって残すか？身近な人から引き出して、文字として残す活動。
- ・最近、植物を切り口に、市町村史に書いてないことを調べようとしている。例えば、干し草や屋根葺きに使っていた茅。調べていくと、用途により茅の呼び名が異なり、また地域により刈り場の呼び方も異なる。
- ・このように、語ってくれる方々の話を聞くと、地域の違いが見えてくる。身近な植物を、暮らしの様々なところに使っているというのが興味深い。

第3回

日付：平成22年1月21日（木）

場所：マイタウン白河

参加者：・白河学研究会 会員約15名
・ふくしま文化応援隊 藤田定興 委員



写真 / 藤田委員の講話

検討を終えて

発足間もない当会にとって藤田先生・菅家氏のお話は大変参考となり活動を進めていく指針となりました。会の活動が、地域をもう一度見直す糸口となることができればと思います。



白河学研究会代表
渡辺友彦さん

ふくしま文化応援隊からのメッセージ（平成 22 年 1 月 21 日の講話から）



白河市文化財保護審議会長
藤田 定興

浄土真宗

浄土真宗の初期の布教の中心地が北関東や東北にあったことは、あまり知られていません。これは、開祖の親鸞上人が流罪となり、常陸（茨城県）に留まったためです。中でも親鸞上人の孫である弟子の如信は、白河で活動したと言われます。如信が拠点としたと言われる場所が2つあり、一つは文献にある奥州大網という地名に近い場所がある古殿町の竹貫。もう一つは、親鸞上人の子・善鸞や孫・如信の墓があるといわれる白河市の常瑞寺。いまだ特定されていません。

曹洞宗

白河市表郷の常在院は、曹洞宗の名僧・源翁が開基と伝えられています。常在院には、源翁が受戒した龍神が水を沸き立たせたという言い伝えがありますが、この辺りは水が少ないところだったらしく、民間伝承と混ざり合って、このような言い伝えが生まれたのではないかと思われます。「源翁和尚行状縁起」と「木造源翁和尚坐像」が、県の重要文化財に指定されています。

鋳物の名工・早川氏

鋳物の名工の早川氏は、白河、会津、仙台で活躍したことで知られていますが、なかでも白河には早い時代から作品が残されています。現在の西郷村米に住んでいたとされ、そのころに作成した最勝寺鐘銘は、福島県歴史民俗資料館に収蔵されています。白河や栃木の辺りを探せばもっと早川氏の作品があるはずです。お寺の撞鐘の拓本をとっておくとよいでしょう。

「白河学研究会」の問い合わせ先

住所：白河市会津町34-60（白河歯科クリニック）

代表：渡辺 友彦

TEL：0248-22-7133 / FAX：0248-27-3536

e-mail：tomohi@citrus.ocn.ne.jp

URL：<http://skw.furusatokaiki.com/index.php?FrontPage>